

研究テーマ ● デジタルサイネージにおける情報提示に関する研究

理工学研究科（工学系）・情報・生体工学プログラム

教授 大塚 作一
助教 福元 伸也

<http://vis.ibe.kagoshima-u.ac.jp/vhilab/>

研究の背景および目的

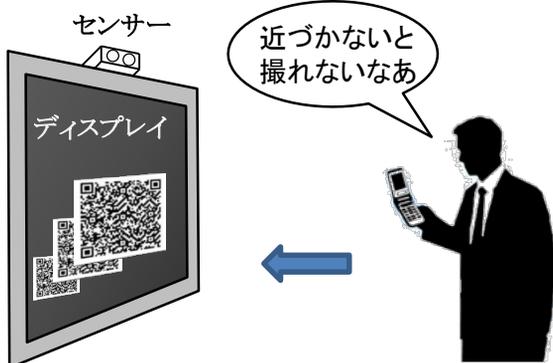
QRコードが広告とWebページとを連携する目的で広く使われており、また、近年、デジタルサイネージが急速に普及しつつあります。しかし、広告の中に表示されるQRコードは、デザイン性の問題などから、非常に小さく表示されていることが多く、情報取得には不便です。そこで、人間の動きに反応して、QRコードを動的に表示できれば、情報取得における利便性の向上が期待できます。

おもな研究内容

デジタルサイネージにおける情報提示手法

情報提示システム

ユーザ



人が近づいて来たことを感知してQRコードを拡大表示

デジタルサイネージとは？

大型ディスプレイに広告を表示する電子看板のこと。

情報取得の問題点

- QRコードの表示は小さく、撮影しづらい
- ディスプレイまでの移動は不便
- デザイン性と機能性を両立できないか

解決法

- QRコードを適応的に拡大表示することで、デザイン性と機能性の両立が可能

情報提示システムにより、QRコードの情報取得が容易になる。現在、必要な基礎データを収集し、**試作システム**を開発中。

期待される効果・応用分野

- 動的に大きさが変わるので、ユーザの注意を引き、広告の注目度が上がります。
- センサーによる感知なので、プライバシー問題は生じません。また低コストで機能を付加できます。
- 広告に近づき、興味を示してくれたユーザの概数を知ることができます。
- ディスプレイ付きレジスターや店頭の販促用モニタへの応用も期待できます。
- 今後のデジタルサイネージの普及や応用範囲の広がりにより大きな市場が期待できます。

共同研究・特許などアピールポイント

- センサーに反応してQRコードを拡大表示する特許を出願中。
- システム化へのご協力や応用分野のご提案など、共同で研究開発を行って頂く企業を募集します。

コーディネーターから一言

センサーで人の動きを感知してQRコードを拡大表示するディスプレイを開発中。低コストで新機能を付加でき、デジタルサイネージの媒体価値も上がります。実用化に向けての研究開発を共同で行う企業を求めています。

研究分野	情報システム、ヒューマンインターフェイス、人間工学、HCI、視覚
キーワード	QRコード、デジタルサイネージ、情報ディスプレイ